

## 週日の説教

金 大烈 神父 2008年11月27日(木)

《今は、御国の生き方を練習するとき》

今日の福音(ルカ 21:20 - 28)は、ルカによる福音書です。ルカによる福音書が書かれたのは、紀元後75年から90年の間です。そして、エルサレムがローマの軍隊にとり囲まれて滅亡したのは、紀元後79年8月29日です。ですからこの福音は予言ではなくて、歴史上の出来事となってから、ルカという福音作家が書いたものです。予言ではなく、証人として、どのような出来事があったかを書くのでわかってほしい、という箇所なのです。

人間が社会を作るようになってから、必ず戦いがありました。戦いの規模が大きくなると戦争になります。人類の歴史の中で、今まで戦争は止まったことがありません。いつもどこかに、武装をして誰かに銃を向けている人がいます。そしてこれからもおそらく戦争は続けられると思います。戦争が起こって一番困るのは、今日の福音にも書かれているように身重の女性や乳飲み子を抱えている母親、そして子ども達です。犠牲となる人々はどの時代でも同じでした。

ローマの将軍が8万の軍隊を連れてエルサレムを囲んだ日、そこにいたこういう人々は大変だったでしょう。あっという間に全員殺されてしまいました。イエス様の預言のとおり、40年かかって建てられた聖殿が崩されたのです。

戦争というものは、人間の社会の中で必ず起こるものかもしれません。では、その中で、私たちはどのようにすれば神様のみ旨に従う姿勢を持つことができるのでしょうか。

皆様、個人的に受けなければならない審判と共に受ける審判があると教理の勉強の時に学んだと思います。教理上、審判と言えばそれは終末のことを意味します。個人的な終末、個人的な審判を私審判と言います。公的な終末、公的な審判を公審判と言います。これはカトリック教会の言葉ですから日本語でどのように訳されているのか調べませんでした。とにかく韓国では、私審判と公審判と言います。

私審判は、個人の死を意味します。個人が死んで、神様の前に立ち、いろいろなことを神様に言われて天国に行くのか地獄に行くのか、告げられることを私審判と教会は言っています。そして、公審判は人類の終わりを意味します。今日の福音でイエス様がおっしゃったようにいつか神様がこの人類全体を審判なさるために来られることを公審判と言います。

初代教会は、2000年前にイエス様が預言された時、すぐ近いうちにこの世は滅びると思いました。だから初代カトリック信者は、共同体の人々と、大切に分かち合いながらイエス様のみ言葉どうりの生き方をしなければならぬと思い、実行してきました。しかし、公審判は来ませんでした。そして600年前、日本の殉教者達もこの世はすぐに滅びるだろうと思いながら殉教しました。2000年前、韓国でもたくさんの殉教者が、この世はすぐに終わるだろう、神様の国が来るだろう、という希望を持って殉教しました。

しかし、その日は誰も分からないとイエス様はおっしゃいました。では、私たちはどのような気持ちで、どのような姿勢で、この終末のことを考えればよいのでしょうか。それは、私審判について責任を果たそうとするのが一番正しい答えになります。

11月の始めに、私は皆様にお願ひしました。今月は特にご自分の死について黙想できる月になってほしい、と。私たちより先に亡くなった人々を思い起こすだけでなく、自ら自分に与えられる死がいつか来ることを黙想し、自分の生き方をよく振り返ってみましょう、というお願いをしました。私たちは、死を考えずに正しい生き方をするのは無理だと思います。死を考えられない人が、人生の意味を失い、自殺をしようとし、無駄に時間をむだづかいしてしまいます。そういう人々にならないた

めに、私たちキリスト者は死と生をともに考えなければなりません。

私たちはいつか神様に招かれます。この人生に招かれたように、このミサの聖餐に招かれたように、私たちは死にも招かれます。そして、私たちはその神様のみ旨に従う方法しかありません。

結局、私たちが目的として一番考えなければならないことは、神様の、御国のことです。今はまだ御国の生き方を練習する、準備する時期であることを今日の福音をとおして考えればよいのではないかと思いました。

ありがとうございました。